

山口隆さんの お話(特別講演)

2006年、第1次安倍内閣は「教育基本法」を「改正」し、教育の目的と憲法の精神との関係を切断了。憲法と同じように前文をもち、「われらは」で始まっていた教育基本法は、「我々日本国民」と改められました。そして「個人の尊厳」は「公共の精神」と同列におかれ、「伝統」などとともに重んじられるべきもののひとつになりました。「公共の精神」という言葉は憲法にはありません。しかし、「改憲草案」を読めば、その意味は「公および公益の秩序」を優先する精神、つまり「人権制限の原理」であることが分かります。憲法の「公共の福祉」という概念が「対抗する複数の人権の調整原理」であるのは本能的に異なりませぬ。「公共の福祉」においてはひとりの人権に対抗しているのは他者の人権です。しかし、「公共の精神」においては、ひとりの人権に対抗するのは圧倒的な力をもつ国家になるのです。こういうふうにならしたちの生活に、しかも国民の育成を目的とする教育に国家は入り込んでくるのです。今起っているのは、改正教育法の仕上げと憲法改正への地ならしに他なりません。小・中学校での「道徳」の教科化や高校での科目「公共」の新設は、閣議決定による「教育勅語」の教材使用の認可と同じ水脈で起っているのです。

教員の統治機構への従属、教育への国家統制の強化に抗して、私たちが権力からいかにして教育の自由を守り、取り戻すか。山口隆さんのお話に学びたいと思います。

上田和彦さん のお話

どんなことをみなさんと考えられたらよいか

授業についてとりわけ強く思うのですが、教師と子どもたちとの関係には学校に起因しないものも含めていろいろあり込んでいます。そして多くはその関係を豊かな関係性へと深めてくれる契機となるはずのものです。願わくは、それが子どもとの関係がうまくいかないとこころ思うのですが、なかなかそのような気持ちにはなれません。

だから、「先生、どの子ども大切にしていますか?」というのは、僕にとって、人に問いたた言葉ではありません。それは内に向かって、自らその前でうなだれるしかない言葉です。大切にできなかったわけではあります。しかしどの子ども大切にできなかったか。関係すら結ばなかった子どももいたし、途方に暮れるならまだしも、腹を立てて終わってしまうことだってあったからです。国語の教師をしていると、教材が突然反省を迫ることがあってうたえるのですが、以前、こんな話をしたことがあります。



「……宮沢賢治の作品をやると共感してくれる生徒がいてうれしいのですが、だからといって授業が穏やかに進んでいるわけではありません。勝手なことをする生徒もいて、中断の連続です。賢治はご存知の通り花巻農学校で教師をしていた時期があります。賢治の作品のいくつかを子どもたちは教室で語って聞かされたといひます。『賢治先生』が原稿を新聞紙かなにかに包んで教室にやってくるのを子どもたちは楽しみにしていたそうです。ですが、そんな賢治の授業中でも内職をする生徒がいて、そんなとき、やり場のない怒りとか悲しさ、情けなさに賢治はチョークをぼりぼり齧ったのです。「チョークをかむような」というのは比喩としてもなかなかのものですが、賢治はほんとうに齧った。でも、僕は齧るかわりに怒鳴る。叱られてふてくされる生徒にまた怒鳴る。文句を言う生徒にまた怒鳴る。そして振り向いて黒板を見ると、そこに『いのちのつながり』なんて書いてあるのです。そして『誠実さ』という言葉まで書き添えてあるのです。もちろんそれを僕は自分で書いたのです。つらい話です。それで、おしまい『さつきはひどいことを言ってしまった。申し訳ない』と謝るのです。」



よりよく生きるとは? 賢治作品の主題では「ほんとうの幸せ」とは何かということになりますが、賢治のものに限らず、どんな教材でもそれを考え、対話的な授業を進めながら共感しあうことができたらいいと思っています。しかし、なかなか思いは届かない。そこに働くさまざまな力に対抗しなければならぬし、それは自分の外にあるものばかりではないからです。

でも、先日のこと、僕がほとんどあきらめかけている女の子がこんなことを書いてくれたのです。思いがけないことでした。だから、分からないのです。そしてこう思うのです。僕たちは自分ができるように分かっているだけで、分からないことに対してもっと正直であるべきなのではないだろうか、と。

その子の問題を解決できればそれに越したことはないのだけれど、問題だらけの今の彼女にも、こんなふうに見える風景があるのだし……と思って、分からないままに待っていようと思うのです。

そして、僕がみなさんと考えたいのはこういうことなのです。

「国語のことが大好きな先生だと思います。私はいつも寝てしまっていますが、起きるとき、先生は楽しそうに話をしています。だから国語が好きなんだと思います。何のために教師をしているのかは分かりませんが、私たちがただ教えているというだけじゃなく、先生に教える楽しさとかがあるからかな、と思います。」(A7)

分科会

大切なこと **みんなでお話しよう!!**
高校生あつまれ!!!
モテロン、大人も!!!
合しかねえぞ!!!
高校生と考える平和分科会

今と何ひとつ変わらぬ高校生たちが、涙とうまみから、震える手と銀を抱えて生命の尊厳と向き合い続けた時代。明日に不安を背負う現代の高校生たちがはじめて「平和のすばらしさ」について想いを馳せたプレゼンテーションを交えて、じっくり本音で **世代を超えて語り合おう!!**

いのち **生と性の授業**

子どもたちには、「なんか幸せやなあ」「明日が楽しみやなあ」と思って毎日をすごしてほしい。でも自分のことが受け入れられなかったり、まわりの人を大切にできなかったり...。自分もまわりの人の心と体も大切にしながら生きていくために、どんなことが考えられたらよいのでしょうか。

◎ 山田真理さん・辻聖佳さん (英真学園)
『LGBTを総合学習で学んで』(仮)
学年の人権学習として、性のあり方や生き方を講師を招いて行った実践です。自分らしい生き方を考え、生徒たちの受け止めはどうだったのか 報告してもらいます。

◎ 伊藤なつかさん (アサンション国際学園)
子どもたちが6年間の小学校生活を通して自分の命もどの人々の命も大切と実感を持って感じていけるように、認知行動療法の理論を用いて、すべての先生と一緒に取り込まれている実践です。

夜のつどい

今年やります 青年部分科会!!
「こんなはずじゃなかった...」
あんな先生になりたい!! こんな先生になりたい!!
でも実際にやってみると「まじか、いいことばかり。」
そして気がつけば問題が山積み...
そんな先生の悩みを聞き、「オレも私もある(あた)!!」
と思っ、一緒に話ができたらなと思います。
もちろん!! その後は夜の交流会。楽しめよう!!

サマデーナイトシアター

「どの子ども大切にしたいみんなでお話しよう!!」
(詳細は 検討中です)

分科会
その他企画中...



オースティン



卒業生を出して、うれしいこと、悲しいこと、衝突したこと、たくさんの思い出を持って旅出していく卒業生、そんな卒業生を送り出した2人の先生のエピソードを聞き、みんなで交流したいと思います。
「金曜日はユラの日~のんちゃんとの出会いと3年間のつながり~」
について箕面学園の岡垣先生が、「初看護科担任奮闘記」を大阪曙光の虫谷先生に語っていただく予定です。